

第6章

今後の方向性

今後の方向性

北部地域は、世界自然遺産登録や大型観光施設の開業、クルーズ寄港増加などにより、今後さらなる観光需要の拡大が見込まれている一方、観光資源が広域に点在し、移動手段がレンタカーに偏っていることで、観光客が十分に周遊できない状況が続いている

本計画では、テーマ別ルートと交通ネットワークを両輪として構築することで、

北部地域全域を「周遊できる広域観光エリア」として継続的に育てていくための中長期的な方向性を示す。

本計画に示す取り組みを通じて、**観光客の立ち寄り箇所の増加、滞在時間の延長、観光消費額の増大、地域産業への波及、地域の価値向上**につなげていくことを目指す

（1）実証の継続と改善（3～5年間の中期的な実証）

北部の観光周遊交通は、単年度の実証では成果が十分に可視化されにくく、旅行者行動、季節変動、地域調整などを踏まえると、複数年度の検証が不可欠である

そのため、**実証は3～5年間の継続的な試行と改善を前提とし、毎年度の評価を通じて改善するPDCAサイクルを確立する**

- 需要：乗降実績、回遊行動、周遊パス利用
- 運行：定時性、接続
- 満足度：案内性、わかりやすさ、利用者体験
- 共生性：既存交通への影響

これらを基に、**運行方式、停留所位置、ルート、便数、接続点等を毎年改善し、体験価値と利便性を高めることで、北部全体の周遊ネットワークを段階的に成熟させていく**

今後の方向性

(2) ネットワークごとの対策と有機的連携（広域アクセス～ラストワンマイルまでの一体設計）

北部地域の観光周遊を成立させるには、以下の3つの移動の有機的連携が不可欠である

- ① **広域アクセス**（空港・那覇市街 ↔ 北部地域）
- ② **地域拠点間の移動**（名護・本部・国頭・恩納等）
- ③ **ラストワンマイル**（拠点 ↔ 観光地・体験拠点・ホテル）

各層に応じた役割と対策の方向性は以下の通りである

広域アクセス

- ・高速バス・空港連絡アクセスの利便性向上
- ・那覇空港や中南部から北部地域までの「入口」を強化し、北部地域への誘客を促進

拠点間移動

- ・幹線交通（既存の路線・シャトル）の有機的活用
- ・道の駅や名護バスターミナルなどの拠点ハブ化による回遊性向上

ラストワンマイル

- ・小型モビリティ、デマンド、シェアサイクル等の柔軟な整備
- ・「行きたいが行きづらい」観光資源へのアクセス改善

これらをつなぎ、中南部から北部地域を一連の動線として機能させることで、北部地域全体を「ひとつの旅のエリア」として周遊できる環境を整える

今後の方向性

(3) 既存交通の最大活用と交通空白・ミッシングリンクの解消

計画の核心は、「新しい交通を過度に増やすのではなく、既存ネットワークを最大限に活かし、交通空白やミッシングリンクを補完する」ことである。

そのため、以下の方向性の取組を進める。

- ・高速バス・路線バスの**接続強化**
- ・コミュニティバス・デマンド交通・ライドシェア等の**役割分担**
- ・シャトル等による**空白区間・ミッシングリンクの補完**
- ・道の駅・港・名護バスターミナルなど拠点での**乗継環境整備**
- ・情報一元化による「あるのに見えない交通」の可視化・情報提供

また、持続的な運営・改善のため、**交通事業者との定期的な意見交換の場（広域交通WG等）**を設け、**広域での共生と協働体制を強化する**。これにより、既存交通を軸にしつつ、交通空白やミッシングリンクを補完した**現実的で持続可能な広域交通ネットワーク**を形成していく。

今後の方向性

（４）地域・広域連携による観光振興とネットワーク構築（市町村間・部門横断の連携強化）

観光行動は市町村内で完結せず、複数市町村をまたいで移動するのが前提であるが、現状では

- ・市町村間の情報共有の不足
- ・観光交通・生活交通の縦割り構造
- ・部門間の連携の希薄さ

が課題となっている

今後は、本計画を元に、**北部12市町村が一体となって観光振興と交通改善に取り組む広域連携モデルを構築していく。**

具体的には、

- ・広域会議・協議体の設置
- ・観光協会、DMO、交通事業者の横断的な参画
- ・観光交通と生活交通の役割分担・共生ルールの整理
- ・周遊パスや情報一元化など北部地域共通サービスの推進

これにより、**観光資源の面的活用・交通利便性向上・広域の魅力発信が連動し、北部地域全体の価値向上につなげていく**

【北部観光の未来像（まとめ）】

（１）～（４）の取組を継続していくことで、北部全域の観光資源が面的につながり、誰もが移動しやすい周遊環境が実現していく。これにより、立ち寄り箇所が増え、滞在時間が延び、観光消費が拡大し、地域産業の振興と北部地域全体の価値向上につなげていく